

(単位:千トン)

年度 項目	2021年度		2022年度		2023年度	
	実績	前年比	見込	前年比	予測	前年比
木造用 (1)	88	▲ 1.4%	81	▲ 8.4%	80	▲ 1.2%
ビル用 (2)	73	▲ 3.6%	73	0.7%	72	▲ 1.4%
アルミサッシ計 (1)+(2)=(3)	161	▲ 2.4%	154	▲ 4.3%	152	▲ 1.3%
ドア (4)	22	3.1%	21	▲ 3.5%	21	0.0%
エクステリア (5)	112	3.8%	110	▲ 1.8%	109	▲ 0.9%
アルミ製室内建具 (6)	34	7.3%	33	▲ 2.4%	34	3.0%
アルミ建材計 (3)(4)(5)(6)	328	1.0%	318	▲ 3.2%	316	▲ 0.6%

コメント

建築着工 2022年実績および年度見込み

1. 木造用サッシ関係指標

1). 2022年1月～12月実績

新設住宅着工戸数は、暦年で860千戸（前年比0.4%増）となりました。

新設住宅着工(戸数)	860千戸	前年比	+0.4%
新設住宅着工(床面積)	69,010千㎡	前年比	-2.3%
木造住宅(戸数)	478千戸	前年比	-4.9%
非木造住宅(戸数)	382千戸	前年比	+7.8%
木造住宅(床面積)	45,184千㎡	前年比	-7.0%
非木造住宅(床面積)	23,826千㎡	前年比	+7.8%
持家(戸数)	253千戸	前年比	-11.3%
貸家(戸数)	345千戸	前年比	+7.4%
分譲(戸数)	255千戸	前年比	+4.7%

2). 2022年度の見込み(4月～3月)

新築住宅着工戸数は、年度で860千戸（前年度比0.7%減）と見込みました。

2. ビル用サッシ関係指標

1). 2022年1月～12月実績

全着工建築物の床面積は、暦年で119,466千㎡（前年比2.3%減）となりました。

全着工	119,466千㎡	前年比	-2.3%
非木造	69,930千㎡	前年比	+1.1%
内非居住用	46,104千㎡	前年比	-2.0%

2). 2022年度の見込み(4月～3月)

非木造用床面積は、年度で71,300千㎡（前年度比2.3%増）と見込みました。

アルミ建材需要 2023年度予測

1. 木造用サッシ

2023年度住宅着工戸数は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行などアフターコロナへの動きはあるものの、資材価格の高騰による住宅建設コストの高止まりや、景気の先行き不透明感の継続などにより、前年より1.4%減となる848千戸と見込みました。

うち木造住宅は475千戸（前年度比1.0%減）と想定しました。

また、木造住宅用サッシの材質別構成比はアルミ製からアルミ樹脂複合製と樹脂製への移行が進み、一戸当たりのアルミ建材重量は減少傾向となっていることから、2023年度の木造用サッシの需要を80千トン（前年度比1.2%減）と予測しました。

2. ビル用サッシ

2023年度の非木造分野は、企業の設備投資により非居住物件の増加が継続するとし、非木造床面積を71,600千㎡（前年度比0.4%増）と見込みました。

しかしながら、増加している流通施設等は居住物件に比べアルミの使用量は少ない傾向にあること、また都心部でマンションが減少することなどからビル用サッシ需要は、72千トン（前年度比1.4%減）と見込みました。

以上のことから、アルミ建材需要全体では、316千トン（前年度比0.6%減）と予測しました。